

日銀鳥取事務所開設 70 周年記念展示会の開催にあたって

今年は、戦後 70 周年ということで、全国各地でいろいろな記念行事が行われています。日本銀行が全国各地に有する事務所は、その全てが終戦前後の昭和 20 年から 21 年にかけて開設されたもので、鳥取事務所も本年 10 月 15 日で開設 70 年を迎えます。

日本銀行の機能としては、金融政策運営がよく知られていますが、実は日本銀行の一番基本的な機能は、「日本銀行券」(=お札)の発行です。

皆様のお財布の中にあるお札を見て頂くと、「日本銀行券」と書かれ、「総裁之印」が押捺されていることに気づくと思います。鳥取事務所は鳥取県の現金供給のかなめとなっており、皆様が金融機関の窓口や ATM から引き出す現金の多くは、このビルの中にある巨大な金庫から金融機関経由で流通しているものです。

(日銀各事務所の開設時期)

事務所名	開設年月日
徳島	昭 20. 4. 16
長野	昭 20. 7. 16
水戸	昭 20. 8. 1
富山	昭 20. 8. 1
盛岡	昭 20. 8. 10
山形	昭 20. 8. 10
鳥取	昭 20. 10. 15
宮崎	昭 21. 2. 12
福井	昭 21. 2. 15
佐賀	昭 21. 2. 18
帯広	昭 21. 8. 1
旭川	昭 21. 8. 1

鳥取における日本銀行とお札のかかわりは、とくに深いものがあります。鳥取市国府町の宇倍神社は、全国で最初にお札の図柄として採用された由緒ある神社です。その後も、宇倍神社は何回もお札に登場しており、とくに昭和初期に発行された「い壹圓券」は、現在でも有効に支払に用いることができます。

こうした鳥取と日本銀行の深いつながりをつままえ、今回、特別に、事務所開設 70 周年を記念して、お金をテーマにした展示会を開催することとしました。

会場内には、宇倍神社所蔵の鳥取にゆかりのある紙幣の現物のほか、鳥取藩札・大判・小判・金塊のレプリカや、昔の出納事務用品などを展示してあります。会場奥にある、3 億 5 千万円分の本物の銀行券の裁断屑で造ったソファに座り、本物そっくりのパック包装した 1 億円相当の模擬紙幣を持って、記念撮影もできます。

10 年に一度あるかないかのこの機会を、どうぞお楽しみ頂き、鳥取と日本銀行とのつながりを体感して頂ければ幸いです。

末筆になりましたが、当展示会の開催にご協力頂いた関係者の方々に、改めて感謝申し上げます。